

平成 27 年度第 1 回仙台市科学館協議会議事録

日 時 平成 27 年 5 月 30 日（土）10：00～12：10

出席者 大草芳江，菊地崇良，小松尚哉，田中真美，鶴谷研，寺前紀夫の 6 委員
（欠席：和泉眞喜子，伊藤仟佐子，長瀬敏郎，樋口和美，平吹喜彦）
教育局理事，館長，副館長，庶務係長，主任指導主事，指導主事 2 名，主任

次 第

1 開会

2 教育長挨拶

○教育長欠席のため，教育局理事挨拶

3 会長挨拶

4 職員紹介

5 議事

○議事の順序の変更について説明

（4）→（1）→（2）→（3）→（5）に変更

○寺前会長が議長となり，会議を進行

○議長より，議事録署名人に小松委員を指名

（4）科学館学習の授業開発（地学分野）について

中田指導主事による実際の実験授業（資料なし）

（1）平成 26 年度主要事業実績報告及び平成 27 年度事業計画について

菅井主任指導主事より資料 1，1－2，1－3 に基づき説明

（質疑等）

【会長】資料 1－3 の 4 ページ『科学相談件数』の『その他』37 件は，例えばどういったものがあるのでしょうか。

【宮崎指導主事】例えば，実験器具の使い方など，物理・化学・生物・地学の全てに係わることや，超常現象の質問などをカウントしています。

【会長】わかりました。『その他』とするのがいいのか，『科学全般』とするのがいいのか。

【館長】「空から何かが降ってくるが，それは何か」といったような相談もあると聞いています。分野に分けきれないものも混じっているかと思います。

【菊地委員】資料を拝見いたしました。これまでの取り組みの成果で、入館者数が増加してきているのだなと思いました。資料１－３の４ページ『利用者状況（平成 26 年度実績）』で、開館当初 25 万人の来館者があって、その後 17～18 万人で推移し、震災を受けて一旦減少したものの、今また増加してきているところに、非常に関心を持って拝見しました。地下鉄東西線が今年の 12 月に開通しますが、これを踏まえて、20 万人くらいの、或いはそれ以上の入館者が見込めるのかなと期待しているところです。館としていかがお考えか伺います。

【館長】東西線の開通により、利便性は明らかに上がると思いますので、多くの方に来館していただけるよういろいろな企画を考えていきたいと思っています。一方、若干懸念なのは、水族館ができるということで、そちらに来館者を取られてしまう部分もあるのかなと。水族館には、当館のチラシを置いていただくなど、連携が図れればと考えています。以前には、松島水族館と連携したこともあります。松島水族館の事業を引き継ぐ水族館ですので、つながりも求めながら、水族館ができることをむしろプラスにできるようにしていきたいと考えています。

【菊地委員】地下鉄に目が奪われがちですが、学校・社会教育施設との連携の成果が着実に上がっていますので、引き続き期待します。なお、水族館の開館によって、科学館の広報や PR の面で不利が生じた場合など、いろいろ発信していただければ、われわれもそれぞれの分野において後押しできると思います。

【館長】水族館も科学館もまるまる 1 日滞在するという施設ではないので、両方通しで見ていただける工夫ができれば強みにできるかと。漫然としていると来館者を取られ、弱みになりますので、上手くやっていければよいなと思っています。

【会長】相乗効果ができればいいと思います。

（２）平成 27 年度科学館特別展について

宮崎指導主事より資料 2， 2－2， 2－3 に基づき説明

（質疑等）

【会長】これまでの我々のコメントも取り入れられたようで、ありがとうございます。

【大草委員】資料 2－2 の中で「100m 走に挑戦！（測定）」とありますが、実際には 100m ないところでどのように測定するのですか。

【宮崎指導主事】実際の 100m のタイムより遅くはなりますが、単純に 10m 走って、そのタイムを 10 倍します。その脇に、レーンランプというものがあるのですが、ウサインボルトのスタートダッシュから 8 m までのタイムと競わせて、世界記録に挑戦という形を考えております。

【菊地委員】今日の冒頭の資料全般から見て、今までの各種意見が反映されてい

ます。入館者の量だけでなく、質の向上も意識されていると思いますので、その点も大事であることを忘れないで意見を出していきたいと思います。

今回の特別展は、普段実生活ではできないようなことを体験させていただける内容となっています。稀な体験を多くの市民の方にしていただくための広報だと思っています。チラシの紙面を大きくした点は、非常にいいなと思います。あとは、いかに読んでもらうか、内容を知ってもらうかにシフトしていくのだと思っています。ターゲットをどの辺にしばっているのかをお聞きかせ願います。市民局やスポーツ財団、或いは地域によっては体育振興会、そういったところに突っ込んでいくのも今回試してみたいはいかがでしょうか。

資料2の「ねらい」にもあるように、仙台出身で、或いは仙台のプロスポーツ集団で活躍している人がたくさんいます。そういった方々に来ていただければいいと思います。

【宮崎指導主事】広報の仕方に関してですが、小・中学生がターゲットということで、スポーツ少年団にチラシをお配りしたいと考えております。他には、中体連にチラシをお配りし、各競技会場で配布していただければと考えておりますが、方法に関しては未定ですので、相談していただかなければならない事項です。市民局、体育振興会につきましても、市のスポーツ振興事業団にお願いし、連絡を取りながら進めています。

活躍している方々に関しましては、いろいろあたってはみたものの、予算やスケジュールの都合が合わないというところがございます。

【館長】プロスポーツでは、野球とサッカーはシーズン中で難しいというお話があり、アマチュア系の方は、むしろ接触は非常に難しいようで、NGでした。行き届かないところがあるのかもしれませんが、できる範囲では手をつくしてみました。

【菊地委員】市民局は頑張ってくれたのでしょうか。

【館長】ご相談はしました。教育局内の関係の方にもあたってみたのですが、やはり難しいということでした。感触としては、協力はしたいのだけれども、難しいといったところでした。

来館者は小中学生で括ると比較的多いのですが、実は中学生は非常に少ない傾向にあります。今年はまさに部活などでスポーツに取り組まれている中学生にうまく届けば来館していただけるかと思いますので、なんとか頑張って広報していきたいと考えております。

【小松委員】全体を見ても、ボリュームがあり、またいろいろと配置されていて分かりやすい。中学生の知識だと、これくらいのものについては理解が十分にできるだろうと思います。いろいろな形で広報できればいいので、どんどん資料を送ってください。

【会長】今回の特別展は、実生活に直接関係するといえますか、ですから広報の仕方も今までと違う切り口が必要なのかなという気も致します。ただ、スポーツ少年団を始め、もう既にコンタクトされていると聞きましたので、ぜひ期待したいと思います。

(3) 収蔵品の寄贈について

館長より口頭による説明（資料なし）

【館長】収蔵品を寄贈いただくお話を2件いただいておりますが、まだお示しする資料が固まっていますので、若干の実物を見ていただきながらお話しさせていただきます。

1件目は、「子供の科学」という本に、紙飛行機的设计図が付いているのをご存じの方もいらっしゃると思いますが、これを書かれている方が、日本の紙飛行機界の第一人者である二宮康明先生です。この方が、仙台出身で、自分の持っているコレクションを仙台市の科学館に寄贈できないかというお話をいただきまして、紙飛行機協会の方などと話を進めているところです。実際に作った実機と設計図、写真などを寄贈していただく方向で進んでいます。

もう1件が、齋藤報恩会という仙台で有名な財団法人があります。昨年度までは、西公園の近くに小さい自然史系を展示した展示室を持たれていましたが、この度財団としての活動をほぼ全てやめるという話になりました。アロサウルスという恐竜の骨格、恐竜の頭部など何点かと、トキや日本カワウソなど絶滅してしまったものも含む何点かの剥製、化石と鉱石といった自然史系の資料約300点については科学館へ、歴史関係の資料、特に絵地図、江戸時代の小地図など約3,000点については博物館に寄贈したいということで、先日5月21日に齋藤報恩会の方から市長に寄贈の申し入れが行われました。

恐竜については、もともと「どうして科学館に恐竜がないの」という市民の声もありますので、ぜひ常設展示に活用できればと考えております。剥製については、かなり貴重なものが日光で退色することも懸念されますので、展示はしたいのですが、方法はこれから考えていきたいと思っています。

(質疑等)

【会長】紙飛行機の活用方法はいかがお考えですか。

【館長】型の著作権は「子供の科学」ではなく紙飛行機協会が持っているということのようなので、かなり自由に使えるだろうという話があります。紙飛行機教室をやったり、何かのイベントの時に、印刷したものをお配りしたり、いろんな展開が考えられます。

【会長】揚力だとか、力学関係の勉強をするだとか。

【館長】科学館の財産として、「あそこは紙飛行機が充実している科学館だよ」といわれるようになっていけばよいと考えております。

【会長】大人も楽しめそうですね。

【館長】サイエンスデイでODAプレーン愛好会という紙飛行機の愛好会の方たちが出展されているのですが、そちらともつながりを持ち、何かできる可能性もあると思っています。

(5) その他

菅井主任指導主事より資料3に基づき説明

(質疑等)

【大草委員】資料3について、イベント情報など、イベントの紹介のアクセス数が多いのは、予想通りというか、求められていることがよくわかるなと思いました。もうひとつ、化学薬品のアクセス数がイベントレベルで多くて意外に思いました。

【菅井主任指導主事】化学薬品を調べるため検索をかけると、科学館のページが上位に位置します。ですので、科学館のページの薬品データベースで調べている数が多いのではないかなと予測されます。

【館長】何らかのニーズがここにあったのかと。こういう分析を見ると、いろいろなことが分かり先に進めます。

【大草委員】充実したデータベースを提供されているということなのでしょうね。

【菅井主任指導主事】基本的・基礎的なことを提供しています。手直しなど、もっと定期的に行っていかなければならないと感じています。

【館長】イベントの様子紹介を月別に見ていくと、平成26年の3月は17万6千件近いですね。今年は5万件ちょっと。去年の3月から4月にかけて、恐竜をエントランスに展示したからという気がします。恐竜の人気のすごさも、これを見るとわかります。

【会長】私も来場者の写真などが掲載される特別展のサイトを見ますが、一週間おきに更新されており、力が入っているなど感心しました。

【大草委員】報告のページがしっかり作られている印象があります。

【菊地委員】安全確保、或いは危険物の紹介などということに関しましては、気を遣いながらも、掲示しないわけにはいかない。これに関して、今何かコメントがあればいただきたい。

【館長】薬品ではありませんが、キノコでも最近新たに毒キノコだと分かったものなどもありますので、そういったものも知っていただけるような掲示をしていかなければいけないね、と話しておったところです。化学薬品についても、今回のご指摘を踏まえて新たな視点でもう一度見直していければと思います。

【菊地委員】危険なことを知ってもらって、危険から命を守ること当然大事だと思う一方で、それを逆手に取られることもあり、非常に難しい。

【館長】硫化水素による自殺がさかんに報道されたことがありますが、特定の

物を混ぜると危険という、逆に作り方がわかってしまうという、その辺の難しいところもあると思います。掲載の仕方を検討しつつ、知らせるべきところは知らせる、というところは考えていきたいと思っております。

【菊地委員】非常によく分析されて、お疲れ様です。素晴らしいなと思います。更に分析するために、例えばご意見やコメントを書き込んでもらう欄を設けるなど、簡単にできるのであれば、一つの手法として気に留めていただければと思います。

科学館の使命として、社会教育施設ながらも、小・中学校の学校教育との連携、あるいは活用のための情報提供、組織の役割というものがあると思います。この表からはなかなか読み取りづらいのですが、それに関していかがお考えかお聞かせ願います。

【館長】学校の先生方に対する情報提供は、学校の中のネットワークなどを使っています。先生方のご意見や改善点などを指摘していただく機会があれば、その辺も取り入れていければよいかなと思います。

【菊地委員】了解いたしました。例えば、科学館や博物館、図書館を学校で使ってくださいね、という話はしているものの、学校教員で、そういうものが使えることは知りませんでしたなどの声がアンケートの中にあつたと聞いておりましたので、お尋ねしました。庁内の系統でオープンにしているという話しであれば、アクセス数など上がっているのか下がっているのか、いずれ何かの機会にお教えいただければと思いました。急ぎませんので、ぜひ、何かの機会に。

【会長】理科教育の面でいろいろな先生方と接点があるので、その場面を上手く活用できればと思います。

【鶴谷委員】6月に小学校の理科の全体会を開催させていただくのですが、科学館の方から科学館の取り組みを紹介していただき、活用についてお話いただく予定です。若い先生が増えてきて、分からない先生もいると思いますので、そういった点でも情報提供をよろしくお願いします。

【小松委員】中学校でもいろいろと広報やご説明をいただいております。特に、化学薬品や図鑑系のページなどは、現場の先生、私も含めて活用させていただいております。化学薬品の場合には、家庭向けの実験、或いは学校で行う実験なども具体的に紹介されています。例えば、特別支援の子どもたちに対してのスライム作りだとか、そういったものを見ながら指導する先生もおりますので、利用価値が高く、素晴らしいなと思っています。ぜひ、更なる充実をお願いします。

【菅井主任指導主事】「自由研究の進め方を学ぼう」の資料をホームページに掲載し、ダウンロードできるようにしています。毎年好評で、学校教育現場だけではなく、社会教育の方からも、使用させてもらえないかという声があがってお

り、いろいろなところで活用されています。子供たちも自由に見られるというところが良い点だと思います。

【会長】今後も計画されることと思いますので、その時にでも、いろいろなご意見をいただきたいと思います。

宮崎指導主事より資料３－２に基づき説明

【大草委員】地下鉄車内に、南北線と東西線の違いや仕組みの解説があったらよいですね。今乗っているものがどうやって動いているか、それが東西線と南北線で違うことを知りながら揺られていたら楽しいかなと。科学館で実験もできるよ、といった広報も織り交ぜ、「今乗っている瞬間も科学」のような感覚を与えられるような何かがあればよいなと思います。

【館長】地下鉄の仕組みの部分は交通局に説明していただくなど、タイアップが必要かと思います。何らかのつながりを持って進めたいと思っておりますので、その中で、今のお話も含めて提案していきたいと思います。

6 事務連絡

○次回開催の日程について、会長と調整のうえ、後日ご連絡いたします。

○7月18日（土）9時から、特別展の開展式を予定しています。ご案内を送付いたしますので、ご出席ください。

7 閉会

平成 年 月 日

議事録署名人

科学館協議会 会長

印

科学館協議会 委員

印